

余談

流 転

年々歳々花相似たり、年々歳々人同じからず、と昔の人はいったが、変化のないような毎日でもその流転していく様は誠にきびしいものがある。そしてその緩急は波の如く、起る時は一挙に起るものである。この1ヵ年間の国内外の政変は流転の端的な現象であった。昨年11月のケネディ米大統領の暗殺に始まるジョンソン政治の誕生に世界をアットいわせる後、英国が保守党から労働党へと政権が交代し、次いで突如としてソ連がフルチシヨフ首相の退陣を発表、当時冗談に「世界の大国の首脳が3人も変ったのだから大国の仲間入(?)をしたと豪語している池田さんもこの辺でおやめになるか」と茶のみ話の種に笑っていた人々もいたが、その舌のねが乾かない間に、3ヵ月前に激しい総裁選挙で継続を許されたばかりの池田さんが、病気治療のため勇退という場面が起った。事実は小説より奇なりというのが誰の演出でもなく、国内外の歴史は全く新しい頁が大きくめくられ、一斉にスタートラインに並んだという感じである。それに加えて岡山県ではもっと身近かに、偉大なキャップ三木さんの急逝という全く予期し得なかった事態までも体験し、流転のきびしさ一入といった感じを強くいただいたころである。

新らしい知事も、大半の予想通りに加藤武徳氏の当選が決まり、三木県政を継承する新しい我々のキャップが中央政府と強い繋がりをもって強力に県民の幸せな社会を建設すると公約して知事の座についた。新知事の目は当然三木県政のあとめとして県南工業地帯にそそがれるであろうが、新機軸は県南に対する県北の産業振興である。県北となると農業を忘れることは出来ないであろう。とりわけ

未開の分野である畜産を、将来の農業の屋台骨である畜産を除いて振興の道はない。畜産にまつわる関連産業の誘致、それに伴った交通網の整備建設、ここにこれからの岡山県産業振興の目がある。新らしい県政がここに目をつけ、勇断をもって県政の伸長を図るべく努力するであろうし、又そうあって貰いたいものである。

運転が世の常であるとするならば、幸運、悲運もまた流転と浮き沈みを共にする。阿呆の鶏飼といわれ、畜産なんかにしがみついていたのでは生涯うだつがあがらんぞと言う人もいるが、しいたげられ、悲運の底にうずもれ、当事者自身が気力すら失いかけていると見受けられる時、実は幸運の芽がそこに芽生えていることがよくあるものである。異状の卵価安で崩潰寸前にまでなって泣いたって卵価の上戻しで既に笑いが来始めている如くに。あきらめないでねばることが勝負の岐れ道である。要は何事も知恵と勇気と努力、そしてねばりこそが肝要なのである。佐藤新首相が4年前、岸内閣退陣を継承した池田内閣誕生の折、一切の役職をしりぞけて一党員として身をひそめ、とりまく家の子郎党でさえ、その腑甲斐なさに悲涙をとどめ得なかったというが臥して3年、第3次池田内閣の国務相となり、そして今回の首相となったのである。自ら求めて身を引く一兵卒になるだけあってさすがは大物とその時心ある人々はその挙動に関心をもったのであったが、彼は流転の原理をよく知っていたのであった。

吸う息、はく息、阿うんの呼吸というが、いつも慾々しく吸ってばかりいては窒息してしまおうし、逆にはいてばかりも結果は同じである。やはり緩急とりまぜることがよいのであろう。畜産経営にして

岡山畜産便り1964.10・11

も同じことである。いつも儲けることばかりに気をとられていると却って損をする。たまには損をすることも大切である。失敗をした時、初めて自分の欠点が発見出来るものであり、知識を吸収し質的内容の向上へと充実していく作用を呈するものである。悲運のあとには必ず幸運がひかえており、否、悲運の中に既に幸運は芽生えていると知るべきである。ただし、物事を投げ捨てないこと。見通しと判断をあやまらないこと。事業は計画的であり且つ長期的であること。又化学的に綿密であること、である。目的を達成するためにはいくつかの段階を経て初めて成功する。段階は一举に4段くらいは昇れるが10段とは昇れない。過程だけをみて成不成を判断するのは早計と知るべきである。ソ連の政変で政策は逆戻りするかと心配した向きもあったが、大綱は変わらず、消費生活の上向を依然大きくかかげている。数年前のソ連からの帰朝報告には必ずといってよい位、国民の自由の束縛があげられていた。しかしこれは過程だけをみた判断であって、生活を豊にするためには国民経済の向上、生産の高揚を先ず前面に出し、消費生活がまんすることが考えられるべきだろう。ソ連は米国と比較され一時期世界から非難されたが、それは目的達成までのある段階であったのであろう。

恋が実を結ぶまでの過程もまた同じではなかろうか。流転の妙味を知っておいて損ではない。

(馬)